

目 次

はじめに

重 田 康 博 (宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター員、国際学部教授)

PART I

| | |
|--|----|
| シンポジウムプログラム | 1 |
| 開会のあいさつ | 2 |
| 中 村 真 (宇都宮大学国際学部長、国際学部教授) | |
| 趣旨説明 | 3 |
| 第1部 講演 | |
| 1. 「奥日光の森はどのように形づくられてきたか ー自然を活かした観光地づくりにむけてー」 | 6 |
| 大久保 達 弘 (宇都宮大学農学部森林科学科教授) | |
| 2. 「外国人が見つけた奥日光の自然の魅力」 | 7 |
| 森 田 孝 道 (日光自然ガイド協議会・日光自然博物館自然解説員) | |
| 3. “Sustainable Tourism Destinations in Europe and Japan” | 11 |
| Bernadett Kiss (CMP S 研究員/ スウェーデン Lund 大学国際産業環境経済研究所講師) | |
| 4. “National park management in Japan and the US” | 17 |
| Carl Salk (CMP S 研究員/スウェーデン農業科学大学研究員) | |
| 第2部 留学生によるプレゼンテーション | |
| 国際交流都市日光の再発見 | |
| 『奥日光の自然を活かした観光地づくりを留学生と考える』 | |
| 1. 「日光!! 日本発脱炭素観光地プロジェクト」 Aグループ | 20 |
| 2. 「提案 外国人に奥日光の魅力を配信する」 Bグループ | 22 |
| 3. 「訪問者が奥日光を楽しめるための提言」 Cグループ | 24 |
| プレゼンテーションへのコメント | 26 |
| 伊 東 剛 (日光市観光経済部観光課長、日光市国際交流協会事務局長) | |
| 閉会のあいさつ | 28 |
| 湯 澤 伸 夫 (宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター長、国際学部教授) | |
| PART II | |
| フィールドワーク | |
| ・ Aグループ: 中禅寺湖エリア | 29 |
| ・ Bグループ: 戦場ヶ原エリア | 31 |
| ・ Cグループ: 湯ノ湖エリア | 34 |
| 関連資料 | |
| シンポジウムのアンケート結果 | 38 |
| 小野寺 櫻 子 (宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター) | |
| グループ別ポスター | 41 |
| 日光プロジェクトチラシ | 44 |